

授業科目名	ホスピタルアート	担当教員	◎丸本真代、関根一夫
選択	開講年次：1年前期	単位：1単位	授業形態：講義 15 時間、演習 15 時間

【授業概要】

スウェーデンをはじめ日本でも実施されているホスピタルアートは、病院内の環境にアートを取り入れ、心と環境を整え治療的効果も生みだそうとする取り組みである。一般的にホスピタルアートは、ホスピタルアートディレクターなどアーティストが作品を病院環境に持ち込むことで実施されている。この授業では、こういった点を理解したうえで、アーティストだけが行うのではないホスピタルアートについて学んでいく。臨床美術の手法により看護師や患者など病院内で生活する人々が制作したアート作品を自らの手で展示し、アーティストと協力しながら実践していくホスピタルアートを講義と演習を通して体験することにより、ホスピタルアートディレクションを行うための基礎を学ぶ。

【授業目的・目標】

1. ホスピタルアートの概念を理解する。
2. 臨床美術の手法で作品制作を楽しみ、自らの作品の持つ価値を理解する。
3. 自らの作品を使ってアートが環境にもたらす効果を体験的に学ぶ。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- | | |
|---|------|
| [01] 講義：ホスピタルアート・臨床美術の概要／制作体験 | (丸本) |
| [02] アートプログラム制作①：目に見えないものを描く「音のアナログ画」 | (丸本) |
| [03] アートコミュニケーション①：存在論的人間観を学ぶ | (関根) |
| [04] アートプログラム制作①：実感して描く「リンゴの量感画」 | (丸本) |
| [05] アートプログラム制作②：立体制作-1 カボチャを作る | (丸本) |
| [06] アートプログラム制作③：立体制作-2 カボチャを作る | (丸本) |
| [07] アートコミュニケーション②：共同制作 | (丸本) |
| [08] アートコミュニケーション③：感性地図を用いたコミュニケーション／鑑賞会のロールプレイング | (丸本) |
| [09] 講義：ホスピタルアートの実際 | (丸本) |
| [10] 作品展示の実践①：展示計画 | (丸本) |
| [11] 作品展示の実践②：展示準備 | (丸本) |
| [12] 作品展示の実践③：作品展示 | (丸本) |
| [13] 実践の基礎①：「さつまいもの量感画」試作 | (丸本) |
| [14] 実践の基礎②：「さつまいもの量感画」ロールプレイング | (丸本) |
| [15] 実践の基礎③：まとめ | (丸本) |

【教科書】

1. 金子健二編（2007）臨床美術－認知症治療としてのアートセラピー，日本地域社会研究所

【参考書】

1. 宇野正威・六角鬼武編（2013）臨床美術-認知症医療と芸術のコラボレーション，金剛出版

【評価方法・評価基準】

授業に取り組む姿勢 70%
レポート 30%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された内容について準備すること。

事後学習：授業内で説明した学習内容を復習、課題の記述を行うこと。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必要要素Ⅰ．教養教育で培う普遍的基礎能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

ロールプレイングについては授業内で発表し合い共有する時間を持つ。

【備考】